

# 千葉県私国立中入試概況

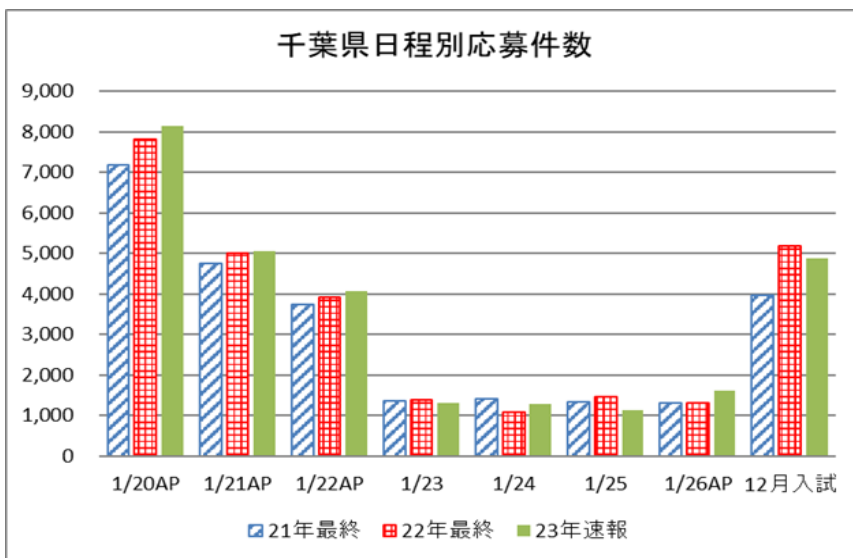
## 1. 概況 応募総数は増加、流通経済大柏が中学を開校

今年はいよいよに全くの新設校の流通経済大柏がスタートしました。千葉県の私立中学入試は12月1日開始の推薦(第一志望・専願)入試と、1月20日開始の一般入試の2種類です。今年度の県内公立小6児童数は約51,800名で、昨年度より400名弱の減少です。県内の公立中高一貫校を含む中学入試の応募総数は2月28日現在約32,400名でした。千葉大附属など未公表の学校があり、最終的にはもう少し上乘せられることとなります。昨年度の最終が約32,000

名でしたから、約400名増加しています。実際を受験者数は未公表校を除いて約28,300名で、昨年度の最終の約27,200名より約1,100名の増加、合格者数は約10,700名で昨年度の最終より約300名増えています。合格者数は、上位コース入試での入りやすいコースへのスライド合格や、特待入試での一般合格を含んでいない学校があって、「入学できる」という意味ではもっと多くなります。ここまでの集計では平均倍率がやや上がっていて、少し難化傾向です。

上のグラフは、この3年間の各校の入試の応募者数を日程別に合計して比較したもので、今年度は速報値です。12月の入試は、公立一貫校の1次と、私立各校の推薦・第一志望入試、12月実施の帰国生入試の合計、APとあるのは午前入試と午後入試の合計です。1月24日は公立一貫校の2次を含みません。昨年度は12月入試の応募者数が増えましたが、昨年度から2段階選抜になった市立稲毛国際の応募者が加わったからです。今年度減っているのは今年度から2段階選抜になった千葉大附属の応募者数がまだ公表されていないからで、昨年度並みの応募者数なら昨年度をやや上回るはずです。

1月の入試では1月20日から22日が応募者数の中



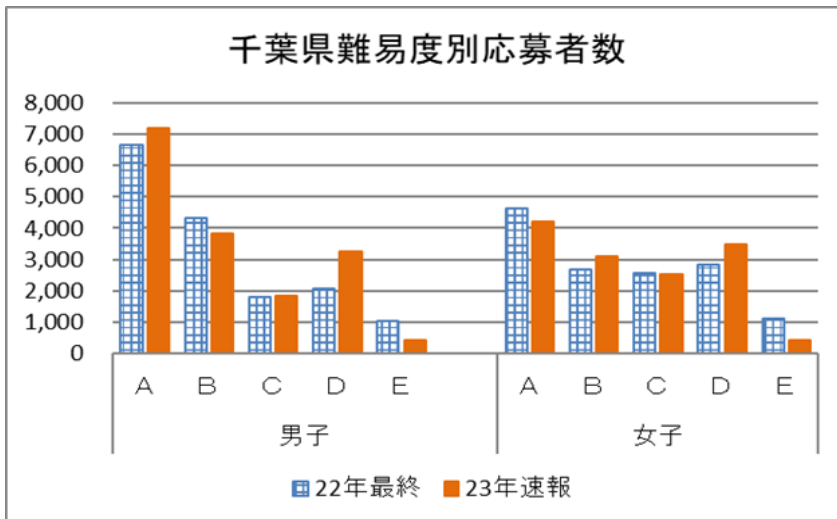
心で、23日以降は小規模です。20日から22日の間では20日が最多、21日、22日と減っていますが、20日は約300名、率では4%の増加です。21日は100名弱、22日は200名弱の増加です。23日から26日は増減がいろいろありますがほぼ昨年並みの応募者数で、合計では応募者が約100名増えています。このことは、1月20日や21日などで不合格だった受験生の再挑戦が少し増えていることとなります。

次に、難度別の応募状況も見えます。グラフは次のページです。各校の応募者数を難易度別に上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べました。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年度は今年用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。各グループの学校はグラフの下に一

覧で表示しています。

千葉県の特徴は、男女とも難関校のAグループが最多になっていることで、東京23区や多摩地区、神奈川県とは異なります。Aグループが最多なのは男女とも同じですが、男子のAグループへの集中度合いは女子よりも高く、その分Cグループ校の応募者が少なくなっています。こうした傾向になるのは、東京23区などからの受験生の流入が多く、これらの受験生はAグループ校を狙うケースが多いためです。

昨年度との比較では、男子はAグループが約500名、率では約8%増えて、学上位受験生の挑戦志向が表れています。Bグループは逆に約500名減っていますが、これも千葉大附属が昨年並みなら少し減った応募者数になるでしょう。Cグループは昨年並み、Dグループは増加が目立ち、Eグループは減りましたが、他地区と同様、昨年までの中学受験の拡大で難化したEグループ校が、Dグループに



◎ 難易度別グルーピング

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で千葉県私国立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。なお、芝浦工大柏はGSの応募者を区分できないためBに区分しています。

- A…市川・渋谷幕張・東邦大東邦
- B…芝浦工大柏・昭和学院秀英・専修大松戸・千葉大附属・麗澤(AE)
- C…国府台女子・千葉日大第一・成田高付属・麗澤(E E)
- D…光英 VERITAS・昭和学院・西武台千葉(特待)・東海大浦安
  - ・二松学舎大附柏・日出学園・八千代松陰・流通経済大柏
  - ・和洋国府台女子
- E…暁星国際・三育学院・志学館・秀明八千代・翔凜・西武台千葉(一般)
  - ・千葉明德

移った影響が出ています。D・Eグループの合計が昨年より500名あまり増えていることから、入り易い学校の人気上昇での増加もあります。

女子はAグループが400名あまり減っていて、その分Bグループが増えています。これは安全志向の影響でしょう、男子ほどは挑戦志向が禍発にはなっていません。Cグループは昨年並み、Dグループは600名あまり増えています。Eグループは減っていますが、このあたりは男子と同じ理由です。ただ、D・Eグループの合計は少し減っていて、千葉県の女子はあまり中学受験が拡大していないようです。

以下、地域別に各校の状況を見ていきます。公立一貫校はまとめて別稿で取り上げます。

☆

## 2. 市川市～千葉市方面

まず女子校から。国府台女子学院の各回次合計の応募者数は、2021年度、昨年度と少し減っていましたが、今年度は増えました。ただ、小幅の変動ですから、人気は安定しています。実際の受験者数は1回の増加が目立っていて、合格者数は各回次とも増えています。合格最低点は12月の推薦がやや上がっていますが、1月の1回、2月の2回は少し下がっています。一般1・2回はやや入り易くなったかもしれません。和洋国府台女子は推薦と1月20日の一般1回の定員を増やしました。各回次合計の応募者数は、小幅ですが増加が続いていて、今年も増えましたが、昨年並みと言ってもよいでしょう。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、各回次とも難度はあまり変わっていないようです。

続いて男女校です。トップ校の渋谷幕張は、2021年度は各回次合計の応募者数が減っていましたが、昨年度は1月20日の帰国生入試と1次の応募者数が増加、

2次は前年度並みでした。今年度は合計の応募者数が少し増えています。帰国生入試は減っていて、増加の中心は1月22日の1次の男子、2月2日の2次の男女です。合格最低点は帰国生入試が昨年並みですが、1次・2次とも少し下がっています。どちらも男子の合格者数を増やしたことが原因でしょう。ただ、もともと高難度ですから、特に入り易くなったわけではありません。

東邦大東邦は原則完全一貫校です。2020年度まで各回次合計の応募者数は少しずつ増え続けていましたが、2021年度は減少、昨年度は前年度並みでした。今年度は、12月の推薦入試が昨年度に続いて男女とも応募者減になっていますが、極端な高倍率入試でしたから敬遠されているのでしょう。他の回次は帰国生入試も含めて応募者が増えていて、増加の中心は高学力層の女子受験生です。合格最低点は推薦入試と2月3日の後期がやや上昇、帰国生入試と1月21日の前期は上昇が目立ちます。出題内容の影響はありますが、全体的に少し難化しているようです。

例年、幕張メッセで大規模な入試を行うことで有名な市川は12月の帰国生入試を曜日の関係で1日前倒しにしました。2021年度は各回次合計の応募者数が少し減って、昨年度は少し増えていましたが、今年はまともが増えていて、男子受験生が増加の中心で、学力上位生の挑戦が活発です。1月20日の1回、2月4日の2回とも合格最低点は昨年に続いて少し上がっています。やや難化したかもしれません。昭和学院秀英は特に入試に変更点はありません。昨年度まで3年間は、各回次合計の応募者数が減っていましたが、今年度は昨年度並みです。難化が進んで敬遠傾向が出ていましたが、歯止めがかかりました。1月20日午後の特別入試の合格最低点は昨年並みで、難度に変化は見られませんが、22日午前の1回、2月2日午前の2回は上がっていて、少し難化したようです。

千葉日大第一は面接を全回取りやめました。2020年度、2021年度と、人気が上がって応募者数が増加、難化傾向で、昨年度は12月の自己推薦と1月21日の1期で応募者の増加が続いたものの、26日の2期は減って、合計では前年度並みでした。今年も1期は応募者の増加が続いていますが、高倍率が避けられたようで自己推薦と2期は減って、合計では少し減っています。合格最低点は自己推薦と1期が昨年度並みで難度に変化はなさそうですが、2期は下がっていて、少し入り

易くなったかもしれません。

東海大浦安も付属カラーが強い学校です。各回次合計の応募者数は、2018年度から昨年度まで増加が続きましたが、今年度はやや減りました。減少の中心は1月24日午前のBですから、県内他校併願の受験生が少し減ったようです。志望順位が高い受験生が中心の12月の専願や、1月20日のA入試は昨年並みの応募者数で人気は変わっていません。合格最低点はA入試と、B入試の4科が少し上がっていますが、出題内容との関係でしょう。B入試の2科は昨年並みで。全体としては、難度はあまり変わっていないようです。

日出国園は特に入試に変更点はありません。各回次合計の応募者数は5年連続で増加していましたが、2021年度は少し減少、昨年度は再び増加、今年度は、1月20日のI期の応募者が減って、合計ではやや減となって隔年的な変化になってきました。合格最低点は23日のII期の4科の上昇が目立ちますが、出題内容との関係でしょう。全体に難度は特に変わっていないようです。

昭和学院はサイエンスアカデミー(SA)コース制を新設、インターナショナルアカデミー(IA)、アドバンスアカデミー(AA)、ジェネラルアカデミー(GA)と合わせて4コース制になりました。今年度は1月25日午前のアドバンスチャレンジ入試を1日前倒しとしたほか、帰国生入試も日程や午前・午後の時間帯を変更しています。各回次合計の応募者数は、2021年度は少し減りましたが、昨年度、今年度と増加が続いて人気が上がっています。合格最低点は回次によって上下や昨年並みなどいろいろですが、出題内容との関係もあります。実際の受験者数は増えていて、合格者の総数は絞っていますから、全体にやや難化したかもしれません。

千葉明德は1月21日午前の適性検査型と20日午前の一般1回の日程を入れ換え、29日午前の一般3回、2月5日午前の一般4回を1日前倒しにしました。2020年度まで各回次合計の応募者数は増加が続いていましたが、2021年度は減少、昨年度は前年度並みでした。今年度は大きく増えて人気に戻ってきました。合格ラインの得点率は変わっていないため、難度は昨年並みでしょう。

国立の千葉大附属は、2019年度まで入試科目が4教科でしたが、2020年度から1次が書類選考、その合格者に2次としてプレゼン、作文、総合問題を実施する

内容に変更、今年度は再び変更され、1次で総合問題と作文、合格者に2次としてプレゼンなどを行う入試になりました。大きな変更ですから結果が注目されていますが、本稿執筆時点で結果は未公表でした。

### 3. 八千代市～成田市方面

成田高附属は、12月の第一志望入試と1月の一般入試合計の応募者数が2021年度は前年度並み、昨年度は減っていて、今年度は第一志望入試が少し増えて、一般入試はその分減り、合計では昨年度並みです。合格最低点は第一志望入試、一般入試とも昨年とあまり変わっておらず、難度は昨年度並みでしょう。

八千代松陰は1月20日の2科+選択科目の入試を4科に、21日午前の1教科選択入試を2科4科選択に、25日午前の入試は取りやめました。他校が入試科目を減らしたり、入試回数を増やしたりするなど、少しでも受験しやすいように変更する事例が多いのに対して、逆行する変更ですが、12月の推薦入試での入学者が多いことを踏まえての変更です。2021年度は各回次合計の応募者数が減っていましたが、昨年度は増加、今年度は入試回数を減らしたために減っています。合格最低点は12月の学科推薦がやや上がっていて、2月5日の入試が下がっていますが、出題内容との関係でしょう。1月20日や21日は科目が変更されていますが、得点率はあまり変わっておらず、全体的には昨年並みの難度だったようです。

秀明八千代は小規模な入試の学校です。2021年度は各回次合計の応募者数が増えていて、昨年度は前年度並み、今年度は少し増えました。合格最低点は公表されていませんが、難度は動いていないようです。

### 4. 房総地区

この地区の各校は寮を設置していて、他の学校とは性質が異なっています。君津市の翔凜は小規模な入試の学校で、昨年度は各回次合計の応募者数が前年度並み、今年度は少し減っています。難度は特に変わっていないようです。

木更津市の暁星国際は1月20日午後算数1科目の1期A2入試を、流山の系列校を試験会場として新設したほか、2月のⅡ期の日程を変更しました。流山の入試は他校併願前提の受験生を考えたものだと思いますが、公表が遅く、受験生にはあまり浸透しなかったようで、ごく小規模な入試でした。本稿執筆時点

でまだ実施していない入試があり、公表範囲では各回次合計の応募者数が昨年並みで、今年も小規模な入試でした。難度に変化はなさそうです。

志学館も1月29日午前入試を、曜日の関係で1日前倒しにしました。各回次合計の応募者数は昨年並みで、今年度も小規模な入試で、難度にも変化はなかったようです。2020年度、茨城県行方市から大多喜町に移転した三育学院は、本稿執筆時点で入試結果は未公表でした。

### 5. 常磐・北総・T×線方面

この地域最大の話は流通経済大柏の中学開校でしょう。高校はスポーツでも有名ですが、中高一貫の生徒たちは、他大学進学やグローバル化への対応力や探究力の育成、母体となっている日本通運グループと手を組んでアントレプレナーシップ(企業家精神)の育成などを特色とした教育内容が予定されています。12月の第一志望入試は国算と作文、一般入試は1月22日午前と26日午前に4教科、26日午後と2月4日午前に2科の入試を行いました。受験界での事前予想を上回る、各回次合計で800名を超えた応募者数で、受験者総数も500名を超え、300名の合格者を出しています。本稿執筆段階では合格最低点がまだ公表されていませんが、中堅校レベルの難度だったようです。

他校も見てみます。芝浦工大柏はグローバルサイエンスクラスと一般クラスの2コース制です。特に入試に変更点はありません。2021年度は各回次合計の応募者数が少し減っていて、昨年度は増加していますが、増加の中心は男子受験生でした。今年度は減っていて、減少の中心は男子です。男子は隔年的な増減が目立ってきました。女子の応募者数は安定した推移です。1月23日午前の1回の鉄板クラスの合格最低点が少し下がっていますが、出題内容との関係でしょう。3回課題作文入試は合格者を絞ったため上昇、難化しています。それ以外は昨年並みの合格最低点で、難度に変化はなさそうです。

専修大松戸も特に入試に変更点はありません。4年間各回次合計の応募者数がほぼ一定の水準でしたが、2021年度はやや減少、昨年度は増加し、今年度は数名減っただけで昨年度並みと、再び安定してきました。実際の受験者数はやや増えていますが、合格者数は少し絞っています。合格最低点は2月3日の3回がやや下がったものの、1月20日の1回と26日の2回は昨

年度並みで、出題内容との関係はありますが、全体として難度はあまり変わっていないようです。

麗澤はAE・EEの2コース制で、入試回次ごとの定員配分のみ変更がありました。各回次合計の応募者数は増加が続きましたが、2021年度は減少、昨年度、今年度と再び増加が続いています。合格最低点は1月21日午前の1回がAE・EEコースとも上昇、25日午前の2回と28日午後の3回、2月1日午後の4回は両コースとも昨年度並みでした。1回は出題内容の影響でしょう。全体の難度はあまり変わっていないようです。

2021年度に女子校から共学化した光英VERITASは、1月20日午前の適性検査型を取りやめ、22日午後の英語入試を20日午前の1回との並行実施とし、22日午前の2回と24日午前の特待選抜の日程を入れ替える、などの変更があります。2021年度は共学化で大人気になり、昨年度もさらに人気が上がって、各回次合計の応募者数はさらに5割増えましたが、今年は減って、人気は一段落です。1月22日以降の入試が減少の中心ですから、難度が受験生に浸透して、早い日程の不合格者の再挑戦が減っているようです。22日になった特待選抜は合格最低点がやや上がっていて、少し難化したようです。12月の推薦入試と24日になっ

た2回は逆に下がっていますが、合格者数が少ないため、得点分布の影響でしょう。難度に影響はなさそうです。他の回次は昨年並みで、やはり難度は昨年並みでしょう。

二松学舎大附属柏は昨年度からグローバル探究と総合探究の2コース制です。今年度は一部の定員を変更しました。各回次合計の応募者数は昨年度まで隔年的に増減していて、今年度は順番通りなら減るはずでしたが昨年並み、厳密には若干増えていました。実際の受験者数はやや減っていて、合格者数は少し増えています。本稿作成時点で合格最低点は公表されていませんが、グローバル探究、総合探究コースとも難度はあまり変わっていないようです。

西武台千葉は小規模な入試の学校です。昨年度新設した1科目特待入試を1週間繰り上げたほか、第一志望入試と2月の2回を1日繰り上げました。昨年度は小規模ながら各回次合計の応募者数はかなり増えましたが、今年度はその反動もあって減っています。不合格者は少なく、難度はあまり変わっていないようです。

## MEMO